



【特別支援学校のセンター的機能】

～しろがね特別支援学校による地域支援～

特別支援学校のセンター的機能として、専門アドバイザーが中心となり、前橋市・渋川市・吉岡町・榛東村・玉村町の小学校・中学校・高等学校・幼稚園・認定こども園・保育園を訪問したり、保護者の悩みを聞いたりして、発達の気になる子ども達についての継続的な支援を行っています。

専門アドバイザーの仕事を紹介します



年長児のクラスを参観したときに、4名（A～D児）の幼児の相談を受けました。いずれも、「集団行動ができない」というものでした。4名の実態が違いため、支援内容も異なってきます。

観察した授業は、床に置いたたくさんのビーズの中から、教師の「ビーズを5個取って」という指示で、自分のカップの中に入れるという活動でした。

A君は、言われたことを実行できますが、気が散ってしまうため、皆と一緒に行動できません。

そこで、A君のグループをA君の話に対応しない友達で構成することにしました。さらに、注意喚起をしてから、話をすることを提案しました。

B君は教師の話は理解できますが、ワーキングメモリーが低いため、活動しているうちに目標を忘れてしまうことがあります。指示で、ビーズを拾っていましたが、うまくビーズをつまめず、悪戦苦闘しているうちに、拾う個数を忘れてしまいました。

そこで、B君には数字で「5」と書いたカードを渡すことを提案しました。

C君は、教師の指示に対する理解が曖昧になることが多く、普段は友達の行動を模倣しています。しかし、今回のテーマでは模倣することができず、目の前のビーズを拾っていません。

そこで、C君に数唱を促すと、「1. 2. 3. 5. 7. 10」と教えてくれたので、5個の枠で仕切っている箱を用意して、1つの枠に1つずつビーズを入れられる手立てを提案しました。

D君はトイレから戻ってくるのが遅れたため、授業に途中から参加し、遅れを取ったため、気を悪くして活動に参加しなかったことが予想されました。トイレから戻ってくるのが遅かったのは、使いたい便器が決まっており、他の便器が空いていてもお気に入りの便器が空くまで待っていたのが原因でした。

そこで、「他児より早くトイレにつれて行き、お気に入りの便器を使用させる」か、「便器のこだわりを止めさせたい」かを担任に確認したところ、こだわりを減らしたいという希望を聞きました。

そのため、並んでいる人が少ない便器に、担任がその都度シールを張り、シールのある便器を使用する約束をD君としました。

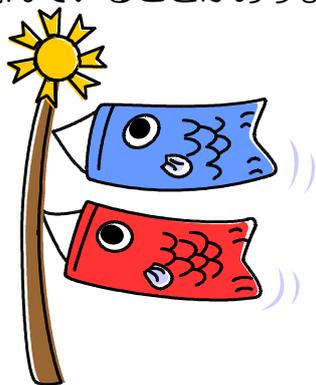
A～D君の4名はいずれも違う理由により集団行動ができませんでした。そのため、その理由を観察し、4名それぞれの手立てを実行したところ、改善が見られました。

相談依頼の件数（外部支援）平成31年 4月の結果

対象	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等学校	その他	計
件数	8件	18件	2件	0件	0件	28件

（その他は関係機関からの相談および研修の講師依頼）

日頃から、本校のセンター的機能の御理解と御協力をありがとうございます。障害の有無にかかわらず、子どもの実態把握・指導内容・指導方法について悩んでいることがありましたら、お気軽に御相談ください。お待ちしております。



群馬県立しrogane特別支援学校
担当：専門アドバイザー 尾岸 純子
電話：027-268-6111
FAX：027-268-6113
メール：shirogane-snes01@edu-g.gsn.ed.jp